

授業科目 (ナンバリング)	化粧品学 (N4D319)			担当教員	相田 美和		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	3 年・後期	選択	選択
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>有機化学、機能形態学等の基礎系科目の知識をもとに、化粧品の原料となる物質を挙げ、ヒトの皮膚や毛髪に対する作用を学ぶことを目標とする。また、薬機法における化粧品の定義や成分表示等の化粧品に関わる法規則を学ぶ。更に、化粧品の選び方、使用法等について、実際に化粧品販売等に携わる実務家から学ぶことで理解を深め、日常生活と関連づけることができるようになる。</p>							②⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 化粧品科学を他の科目と関連づけることができる。 化粧品に関する法・規則等を説明できる。 皮膚や毛髪の構造を理解し、化粧品成分の効果を説明できる。 				小テスト 授業態度・議論への参加度 課題	20% 20% 20%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> 化粧品の心身に与える影響について考えることができる。 化粧品科学を生活と関連づけて説明できる。 				レポート	40%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>ゲストスピーカー以外の授業回において、授業内容から出題する小テスト（選択式）を授業中に実施、授業態度・議論への参加度を授業中の問いかけへの回答数等により評価する。また、ポートフォリオを使って授業後に身の回りの化粧品等に関する課題を課す。ゲストスピーカーの授業についてはレポートで評価する。小テスト、問いかけ及び課題のフィードバックは授業で行う。</p>							
授業の概要							
<p>授業は主として授業前に配布する資料に沿って行う。小テスト及び問いかけへの回答はポートフォリオを使用するため、スマートフォン等のインターネット接続可能な端末を持参することが望ましい。化粧品開発、実際の化粧品の説明等については外部の先生に講演していただく予定である。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：化粧品ハンドブック第2版（薬事日報社）、化粧品科学ガイド第2版（フレグランスジャーナル社） 指定図書：化粧品ハンドブック第2版（薬事日報社）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
化粧品には身近な生活用品も含まれる。身の回りの化学物質に興味を持ち、積極的に授業に参加して欲しい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	化粧品概論	化粧品の定義、分類、品質特性と関連科学	定義、分類を復習する。	337/856/857/867
2	化粧品に関する法・規則	化粧品に関する薬機法の概要、化粧品基準	薬機法の概要を復習する。	81/537
3	化粧品原料・製剤化	化粧品の基本的な原料と製剤、化粧品の開発 (ゲストスピーカー・実務家)	原料と製剤を復習する。	566
4	化粧品使用の意義	皮膚の経年変化、化粧品による QOL 向上 (ゲストスピーカー・実務家)	化粧品使用の意義を考察する。	9/413
5	皮膚・爪	皮膚・爪の構造と機能、皮膚の洗浄	皮膚・爪の構造を復習する。	413/544/ADV161
6	皮膚	皮膚を健やかに保つ化粧品、皮膚障害	皮膚障害を復習する。	413/687
7	紫外線の影響	紫外線と皮膚、日焼け止め、光毒性	紫外線の生体影響を復習する。	544/687
8	頭髪用化粧品	毛髪の構造と機能、シャンプー、リンス、育毛、パーマメント、染毛	毛髪の構造、界面化学を復習する。	413/857
9	化粧品の安全性と品質表示	化粧品の成分規制、安全性試験	安全性試験を復習する。	413/544
10	化粧品成分	代表的な化粧品成分とその効能・効果	皮膚用薬剤を復習する。	337/867
11	東洋医学と美容	身体の中からの美容提案 (ゲストスピーカー・実務家)	東洋医学を復習する。	337
12	化粧品の使用法	スキンケア化粧品、メーキャップ化粧品、使用の実際 (ゲストスピーカー・実務家)	スキンケア・メーキャップを復習する。	857/867
13	化粧品の色彩効果	化粧品に配合される着色剤(色剤)、色彩による効果 (ゲストスピーカー・実務家)	着色剤を復習する。	9/337
14	芳香化粧品	嗅覚、芳香成分	嗅覚を復習する。	337
15	芳香化粧品	芳香化粧品の製品特性、簡単な香水の作成	精油のにおいを調べておく。	867
16				

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

* 到達目標番号と到達目標の対応は、大学 HP 掲載のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。